

アルコニックス株式会社
2026年3月期 第2四半期
決算説明資料

2025年11月13日



INDEX

1. 2026年3月期 2Q 決算概要
2. 2026年3月期 通期業績見通し
3. トピックス

中期経営計画2024振り返り(再掲)

会社概要 / Appendix

INDEX

1. 2026年3月期 2Q 決算概要
2. 2026年3月期 通期業績見通し
3. トピックス

中期経営計画2024振り返り(再掲)

会社概要 / Appendix

経営環境	▶ 自動車関連は総じてやや苦戦、半導体関連は7月以降低調 ▶ ニッケルは引き続き下落基調、アルミ・銅は前年同期比平均値を上回る ▶ 非鉄金属スクラップ市場は低迷
第2四半期 決算	売上高 : 102,046百万円 (前年同期比+6.7%) 営業利益 : 4,412百万円 (同+27.8%) 営業利益率 : 4.3% (同+0.7pt) 経常利益 : 3,960百万円 (同△1.8%) 経常利益率 : 3.9% (同△0.3pt) 中間純利益* : 2,573百万円 (同△3.3%)
2026年3月期 業績見通し	売上高 : 215,000百万円 (2025年3月期比+9.1%) 営業利益 : 8,800百万円 (同+27.2%) 経常利益 : 8,200百万円 (同+8.9%) 当期純利益* : 5,400百万円 (同+12.4%) 進捗状況を鑑み、各セグメント利益見直しを見直し (p15)
配当政策 株主還元策	▶ 前期より中間+10円の増配を実施 ▶ 「長期経営計画2030」においてDOE 3%から4%以上に目標を引上げ 中間配当42円 + 期末配当42円 = 年間84円

*中間/当期純利益 = 親会社株主に帰属する中間/当期純利益

業績概要 2026年3月期 第2四半期



(百万円)	2025年3月期 2Q	2026年3月期 2Q	対売上高比率 (%)	増減率 (%)	2026年3月期計画値(通期)	
					通期見通し	進捗率
売上高	95,651	102,046	-	+6.7%	215,000	47.5%
売上総利益	12,589	14,252	14.0%	+13.2%	29,000	49.1%
販売費及び一般管理費	9,138	9,839	9.6%	+7.7%	20,200	48.7%
営業利益	3,451	4,412	4.3%	+27.8%	8,800	50.1%
経常利益	4,030	3,960	3.9%	△ 1.8%	8,200	48.3%
親会社株主に帰属する 中間純利益	2,661	2,573	2.5%	△ 3.3%	5,400	47.7%
1株当たり 中間純利益(円)	88.21	85.87	-	-	179.79	-
EBITDA (参考)	5,780	6,728	6.6%	+16.4%	13,000	51.8%

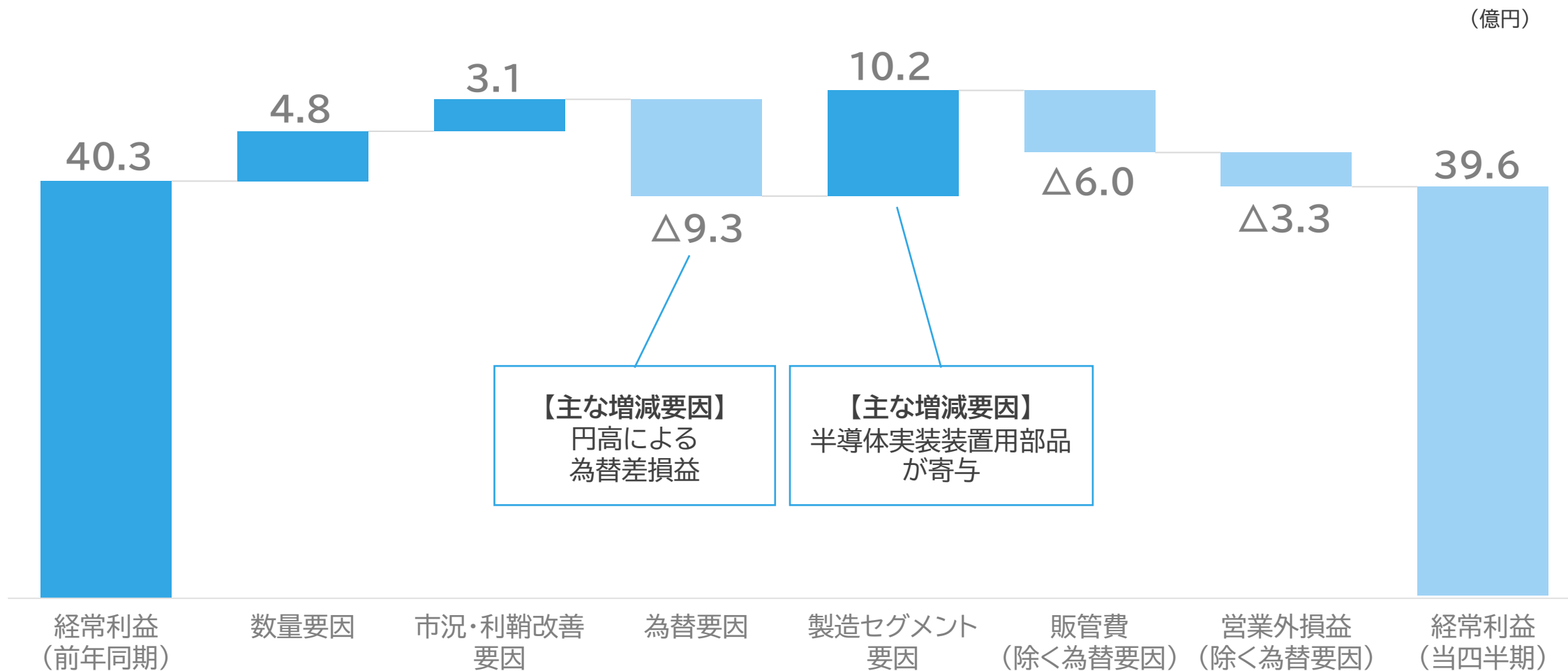
EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれんの償却額

経常利益の増減分析 前年同期比



※1 小数点第1位以下は切捨表記

※2 端数調整の関係により数値が一致しない箇所がある



セグメント別業績 2026年3月期 第2四半期



※1 増減・端数調整の関係により数値が一致しない箇所がある ※2 売上高は外部顧客に対する売上高を指す

(百万円)			2025年3月期 2Q	2026年3月期 2Q	構成比	増減額	増減率
商社流通	電子機能材	売上高	14,875	18,333	18.0%	+3,457	+23.2%
		セグメント利益	1,455	1,487	37.6%	+31	+2.2%
	アルミ銅	売上高	40,932	41,443	40.6%	+511	+1.2%
		セグメント利益又は損失	670	△ 274	-%	△ 945	-%
	計	売上高	55,808	59,777	58.6%	+3,969	+7.1%
		セグメント利益	2,126	1,212	30.6%	△ 914	△ 43.0%
		利益率	3.8%	2.0%	-	△ 1.8pt	-

売上高		セグメント利益
電子機能材	レアメタル取引と電池関連取引が寄与し、増収	増収要因に加え半導体関連取引が寄与し、増益
アルミ銅	アルミ地金・圧延品、銅板条取引が寄与し、増収	アルミ地金やスクラップの収益率低下や、自動車関連製品やチタン製品の需要低迷により、減益

セグメント別業績 2026年3月期 第2四半期



※1 増減・端数調整の関係により数値が一致しない箇所がある ※2 売上高は外部顧客に対する売上高を指す

(百万円)		2025年3月期 2Q	2026年3月期 2Q	構成比	増減額	増減率
製造	装置材料	売上高	22,677	22.3%	+31	+0.1%
		セグメント利益	488	12.9%	+21	+4.5%
	金属加工	売上高	17,166	19.2%	+2,393	+13.9%
		セグメント利益	1,419	56.0%	+799	+56.3%
	計	売上高	39,843	41.4%	+2,425	+6.1%
		セグメント利益	1,907	68.9%	+821	+43.0%
		利益率	4.8%	-	+1.7pt	-

売上高		セグメント利益
装置材料	検査装置取引や北米市場の電気設備部品取引が寄与し、増収	増収要因により、増益
金属加工	研削・切削加工品や電池関連プレス部品取引が寄与し、増収	半導体実装装置用部品、電池関連プレス部品が寄与し、増益

グループ会社別取扱品目一覧

※売上総利益ベース(前年同期比)
YoY 増加:○ 減少:×



	取扱い グループ会社	自動車 (部品・材料)	半導体	電子材料 電子部品	その他
電子機能材	・アドバンストマテリアルジャパン ・ANDEX	・EV/FCV部品材料 × ・車載電池用材料 ×	・半導体各種材料 ○	・携帯機器端末部品材料 ・IT機器部品材料 ・各種電池材料 ○	・特殊鋼素材(レアメタル) ○ ※ニッケル、モリブデン等
アルミ銅	・林金属 ・アルコニックス・三高 ・アルミ銅センター ・平和金属	・電装部品 × ・自動車構成部材 ×	・リードフレーム用銅条 ×	・コネクタ部品 ・プリント基板部品	・建築資材 × ・電気設備部品(ブスバー) ・アルミ缶材 ・熱交換器用素材(チタン他) ・医療向けチタン展伸材 ・空調機器向け材料 (アルミ圧延品・伸銅品)
装置材料	・UNIVERTICAL HD ・東海溶業 ・マークテック ・富士カーボン製造所	・自動車構成部材用めっき材料 ・金型用溶接材料 ・ブレーキパッド用カシュー樹脂 ・自動車生産ライン向け 非破壊検査装置/化成品 ・電装部品用モーター部品	・半導体用めっき材料	・電波吸収体	・非破壊検査装置/検査用化成品 ・マーキング装置 ・電気設備部品(ブスバー) ○ ・電動工具/家電等向けモーター部品 ×
金属加工	・大川電機製作所 ・大羽精研 ・富士プレス ・FUJI ALCONIX Mexico ・富士根産業 ・ジュピター工業 ・ソーデナガノ ・坂本電機製作所	・パワートレイン向け部品 ○ ・EV車載電池向け部品 ○ ・自動車試作部品	・製造装置向け部品 ・実装装置向け部品 ○	・コネクタ端子部品 ×	・航空機用部品 ・空調機器向け部品 ×

連結貸借対照表 2026年3月期 第2四半期

- ▶ 流動資産：主に海外法人でのCCC*改善により、現預金が増加
- ▶ 有利子負債*：長期借入金の約定弁済を行う一方で短期借入金増加により、有利子負債が増加

資産の部 (百万円)	2025年3月期	2026年3月期 2Q	増減額	負債・純資産の部 (百万円)	2025年3月期	2026年3月期 2Q	増減額	自己資本比率
流動資産	144,374	144,776	+402	負債	126,321	127,759	+1,438	35.2%
現金及び預金	18,762	22,252	+3,490	流動負債	103,196	107,218	+4,022	(前期末)
売上債権	63,291	61,266	△ 2,025	仕入債務	53,382	53,307	△ 75	35.4%
棚卸資産	56,496	55,972	△ 524	短期借入金等	38,591	42,206	+3,614	ネットD/Eレシオ
固定資産	52,259	53,328	+1,069	固定負債	23,125	20,541	△ 2,584	0.5
有形固定資産	37,374	37,353	△ 21	長期借入金	15,150	14,045	△ 1,104	(前期末)
無形固定資産	2,995	2,798	△ 197	純資産	70,312	70,345	+33	0.5
投資その他資産	11,889	13,176	+1,287	株主資本	56,986	58,443	+1,457	
総資産	196,634	198,105	+1,471	その他包括利益 合計	12,670	11,302	△ 1,368	
				負債及び純資産 合計	196,634	198,105	+1,471	

*CCC: キャッシュ・コンバージョン・サイクル

*有利子負債 = 短期借入金 + CP + 1年以内支払長期借入金 + 1年以内支払社債 + 社債 + 長期借入金

※増減・端数調整の関係により数値が一致しない箇所がある

連結キャッシュ・フロー 2026年3月期 第2四半期

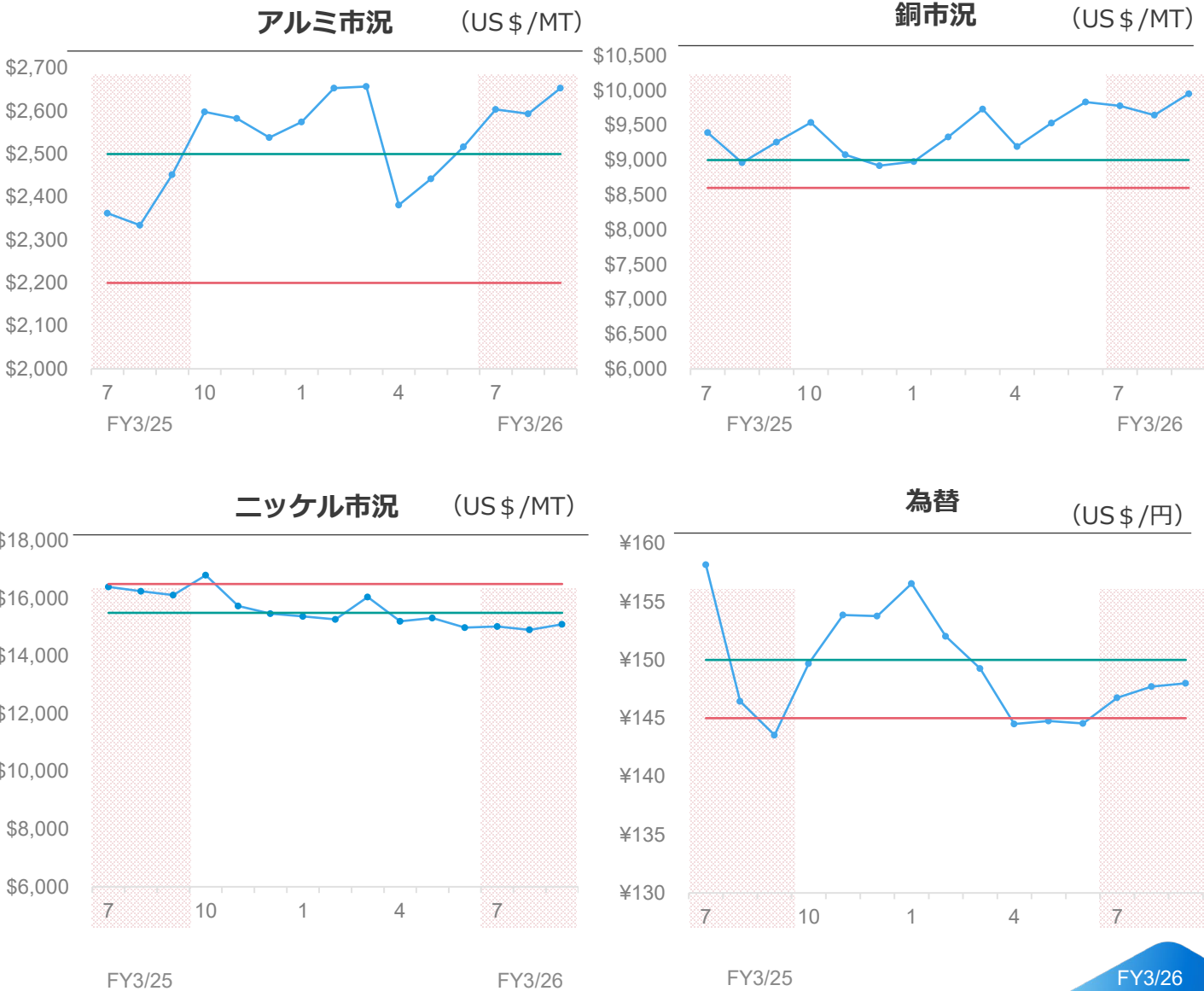
- ▶ 営業CF：CCCの継続的な改善取組みにより運転資金を抑制、大幅に増加
- ▶ 投資CF：製造セグメントでの高水準の設備投資により、前年同期を上回る
- ▶ フリーCF：投資CFのキャッシュアウトを上回る営業CFにより、プラスを確保
- ▶ 財務CF：株主還元強化を実施後もフリーCFをプラス確保し、大幅に減少

(百万円)	2025年3月期 2Q	2026年3月期 2Q	増減額
現金及び現金同等物の期首残高	19,721	17,781	△ 1,940
営業C/F	558	6,191	+5,632
運転資本の変動等	△ 5,336	1,446	+6,783
投資C/F	△ 2,892	△ 3,123	△ 231
有形・無形固定資産取得等	△ 3,082	△ 3,840	△ 758
フリーC/F	△ 2,333	3,067	+5,401
財務C/F	3,565	1,256	△ 2,309
換算差額	867	△ 684	△ 1,551
現金及び現金同等物の増減額	2,099	3,639	+1,540
現金及び現金同等物の期末残高	21,820	21,420	△ 399

非鉄金属市況・為替の動向

	2025年 3月期	2026年3月期		
	実績 平均値	期初想定 レート (A)	2Q実績 平均値 (B)	差異 (B)-(A)
アルミ ニウム (US\$/MT)	2,526	2,500	2,531	31
銅 (US\$/MT)	9,369	9,000	9,655	655
ニッケル (US\$/MT)	16,557	15,500	15,092	△408
為替 (US\$/円)	152.58	150.00	146.04	△3.96

※1 非鉄市況:小数点第1位以下は切捨表記
※2 端数調整の関係により数値が一致しない箇所がある



INDEX

1. 2026年3月期 2Q 決算概要
2. 2026年3月期 通期業績見通し
3. トピックス

中期経営計画2024振り返り(再掲)

会社概要 / Appendix

2026年3月期 通期業績見通し



(百万円)	2025年3月期 実績 (A)	2026年3月期 通期見通し(B)	2026年3月期		増減額 (B)-(A)	増減率 (%)
			1Q	2Q		
売上高	197,004	215,000	52,506	49,539	+17,995	9.1%
売上総利益	26,021	29,000	7,369	6,882	+2,978	11.4%
販管費及び 一般管理費	19,101	20,200	4,923	4,916	+1,098	5.8%
営業利益	6,919	8,800	2,445	1,966	+1,880	27.2%
経常利益	7,528	8,200	2,052	1,907	+671	8.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,805	5,400	1,267	1,305	+594	12.4%
1株当たり 当期純利益(円)	159.31	179.02	42.34	43.53	-	-
EBITDA (参考)	11,734	13,000	3,584	3,143	+1,265	10.8%
ROE	8.6%	9.2%	【参考】2026年3月期想定レート			
			Al	US\$ 2,500/MT	Cu	US\$ 9,000/MT
ROIC	3.9%	5.4%	Ni	US\$ 15,500/MT	為替	150円/US\$
1株当たり 配当金(円)	74	84	EBITDA=営業利益 + 減価償却費 + のれんの償却額 ROE =親会社株主に帰属する当期純利益÷株主資本x100 ROIC =税引後営業利益÷(有利子負債+株主資本)x100 ※「株主資本」の定義:連結貸借対照表の「資本金」+「資本剰余金」+「利益剰余金」			

※増減・端数調整の関係により数値が一致しない箇所がある

2026年3月期 通期業績見通し セグメント別

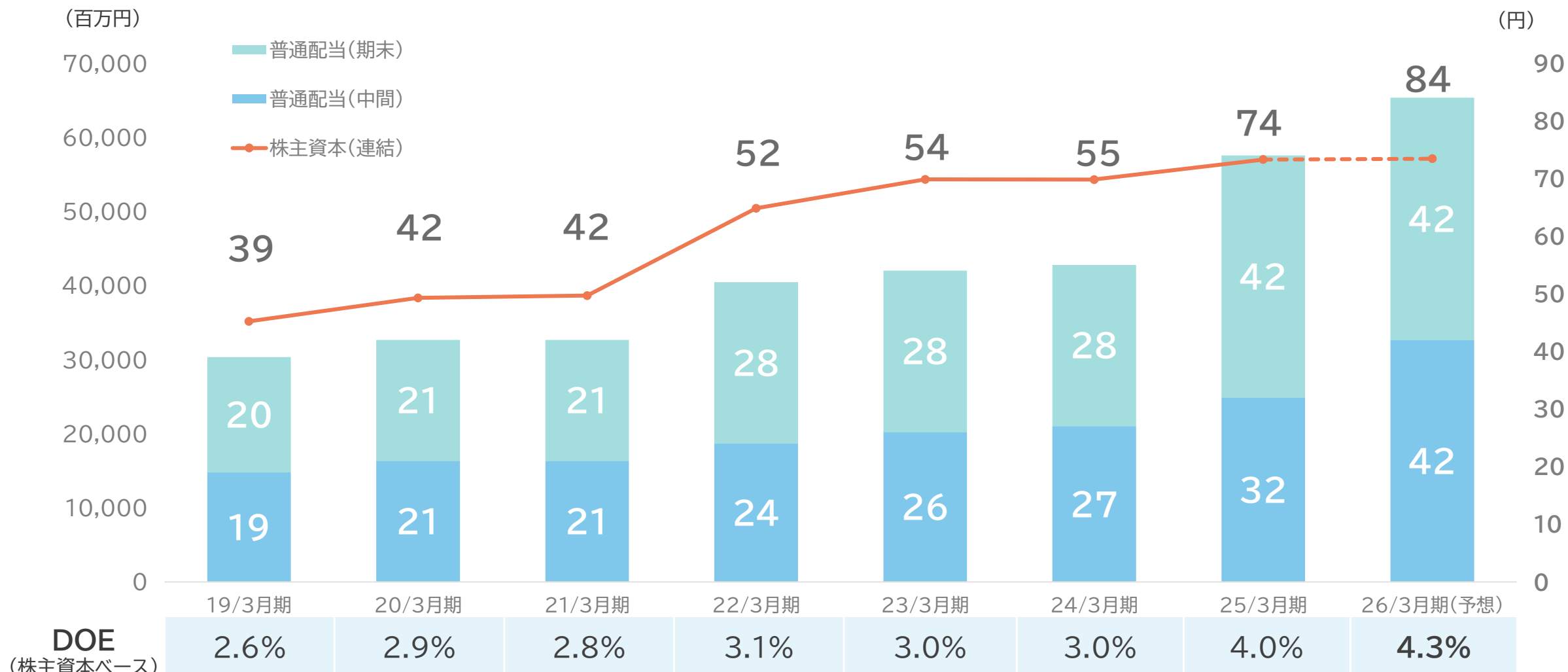


(百万円)			2025年3月期 実績	2026年3月期 2Q	2026年3月期計画値(通期)		
					通期見通し	構成比	進捗率
商社流通	電子機能材	売上高	32,054	18,333	34,000	15.8%	53.9%
		セグメント利益	2,235	1,487	2,300	28.0%	64.7%
	アルミ銅	売上高	82,552	41,443	88,000	40.9%	47.1%
		セグメント利益又は損失	492	△ 274	0	6.1%	-%
	計	売上高	114,607	59,777	122,000	56.7%	49.0%
		セグメント利益	2,727	1,212	2,800	34.1%	43.3%
		利益率	2.3%	2.0%	2.3%	-	-
製造	装置材料	売上高	45,831	22,709	50,000	23.3%	45.4%
		セグメント利益	1,610	510	1,700	20.7%	30.0%
	金属加工	売上高	36,566	19,559	43,000	20.0%	45.5%
		セグメント利益	3,241	2,218	4,200	45.1%	52.8%
	計	売上高	82,397	42,269	93,000	43.3%	45.5%
		セグメント利益	4,851	2,728	5,400	65.9%	50.5%
		利益率	5.8%	6.5%	5.8%	-	-
合計		売上高	197,004	102,046	215,000	-	47.5%
		経常利益	7,528	3,960	8,200	-	48.3%
		利益率	3.8%	3.9%	3.8%	-	-

※1 増減・端数調整の関係により数値が一致しない箇所がある ※2 売上高は外部顧客に対する売上高を指す

株主還元策

- ▶ 2025年3月期より中間10円の増配を実施
- ▶ 「長期経営計画2030」においてDOE 3%から4%以上に目標を引上げ



DOE:株主資本配当率(1株当たりの年間配当額÷1株当たりの株主資本 x 100)
 (「株主資本」の定義:資本金+資本剰余金+利益剰余金)

INDEX

1. 2026年3月期 2Q 決算概要
2. 2026年3月期 通期業績見通し
3. トピックス

中期経営計画2024振り返り(再掲)

会社概要 / Appendix

【製造 | 装置材料セグメント】 - 中国内の生産能力を強化 新工場建設進捗 -

- グループ会社のUNIVERTICAL HDが中国に新工場(銅陵市)を設立、10月中旬に開所式を行った(中国2拠点目)
- 中国国内市場での半導体装置・部材の国内需給体制が進む中、同工場にも生産設備を設置、供給体制を整備
- 2027年中頃に向けて段階的に生産量を増やす体制構築を進める



銅陵 蘇州



銅陵工場



蘇州工場

新会社商号 **Univertical New Materials(Tongling)Co.,Ltd.**

所在地 中国 安徽省銅陵市

事業内容 めっき材料製造

【サーキュラーエコノミー】 - 非鉄金属スクラップ集荷量**日本一**を目指す -



当社マテリアリティ[E]:

リサイクル事業を重点事業とし、適正・適法な循環型社会の実現を目指します。

更に、事業活動を通じた環境負荷の軽減に努めます。

アルコニックスグループオウンドメディア

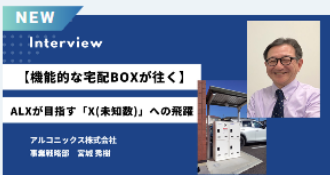
ALCONIX'S BluePrint

アルコニックス ブループリント

夢みた未来の設計図

アルコニックスがどんな夢を描き、その実現のためにどんな行動をしているのか。私たちの取組みはすべて「夢みた未来を描く」ことに繋がっています。

このメディアではアルコニックスの事業紹介、人的資本、サステナビリティ、理念などを発信していきます。



2025.10.10

【機能的な宅配BOXが往く】アルコニックスが目指す、「X(未知数)」への飛躍～その2～

#サステナビリティ #事業紹介



2025.09.30

ビジネスの未来を担う、アルコニックスグループのCVC

#こんなところに「アル」コニックス #事業紹介



2025.09.25

アルミリサイクルの現場から：日本アルミニウム協会がアルコニックスに見出す循環経済への突破口

#こんなところに「アル」コニックス #非鉄金属
#事業紹介 #サステナビリティ

日本アルミニウム協会・サーキュラーエコノミー委員会が 当社「再生資源ヤード」(福岡県北九州市)*を視察

アルミリサイクルの現場から：

日本アルミニウム協会がアルコニックスに見出す循環経済への突破口



* 国内有数の大規模な敷地面積(9,748㎡)を25年1月に開設
アルコニックスが投資し、グループ会社のアルミ銅センターがオペレーションを行う



グループ会社であるアドバンスドマテリアルジャパン株式会社ではレアメタルやレアアースを取扱う専門商社として、循環型社会の実現に向けたリサイクル事業を推進しています。

台湾のリサイクル企業、聯友金属科技股份有限公司(リエンヨウメタルズ)と協働し、タングステンスクラップや使用済み超硬工具からタングステンやコバルトを回収・再資源化しています。また、廃電池を回収してブラックマスに加工しているリチウムやコバルト等の貴重な資源を効率的に再利用し、電子機能材事業の電池分野への展開を強化しています。

再生資源物の保管については課題が山積

- 各自治体が条例による対策を強化、国も廃棄物処理法を厳格化の方針
- 石原環境大臣就任会見でも「不適正ヤード」対策推進を言及*
- 規制対応には一定以上の土地面積や設備が求められる可能性があり、当社にとっては優位性が高まると推測

再生資源物保管等事業場における生活環境保全上の支障事例



崩落した金属スクラップ



火災発生後の雑品スクラップ



雑品スクラップの屋外保管に伴う油汚染



雑品スクラップの洗浄に伴う汚水の流出

7

不適正ヤード対策①：有害性の観点を踏まえた規制のあり方

現状と課題

- 一部地域において、有害使用済機器保管等届出制度の対象外である雑品スクラップ等について、保管場（ヤード）における不適正な処理に起因する騒音や悪臭、公共用水域や土壌の汚染、火災の発生等が報告されている。
- 現行の廃棄物処理法では対応が困難となっているこうした環境問題に対処するため、一部の自治体において、廃棄物処理法上の廃棄物や有害使用済機器に該当しない物品の保管に関する条例が制定されている。
- こうした自治体の条例の創設に対して、事業場を移転し規制から逃れる事業者の存在も聞いており、全国的な問題に波及するおそれがあることから、90以上の都道府県及び政令市が全国で統一した制度の創設を望んでおり、法制度による不適正ヤード対策が急務となっている。
- ヤード問題は地域によって偏在する特徴を有しており、一律の規制制度を導入する際には、既に条例で独自の規制制度を導入している自治体の取組にも配慮することが望ましい。

見直しの方向性

- 廃棄物処理法上の廃棄物又は有害使用済機器に該当しない、雑品スクラップや使用済鉛蓄電池等の不適正な処理に起因する生活環境保全上の支障が生じているところ、これらの物品を対象とした適正な処理を確保するための全国で統一した制度の創設が必要である。

- 関東を中心にヤード条例の制定
- 条例を制定していない自治体へのヤード移転



現状と課題

- 全国で統一した制度の創設



見直しの方向性

8

* 環境省「石原環境大臣就任会見」(令和7年10月22日公開)
<https://youtu.be/gYWZkFUTOMc?si=yTcuq5j8hp-hMtiF>
 日刊産業新聞「石原環境相が就任会見 不適正ヤード対策推進」
<https://www.japanmetal.com/news-h20251024146173.html>

出所：環境省「今後の廃棄物処理制度の検討に関する 概要資料」
<https://www.env.go.jp/council/content/03recycle06/000351652.pdf>

□ 資源の供給制約や枯渇リスクへの対処

- アルミニウム新地金は全量を海外からの輸入に依存している。
- 資源の枯渇に加え、地政学的リスクの高まりにより供給途絶の懸念が顕在化。
- 国内スクラップ資源の海外流出が進行、国内供給環境の悪化が懸念されている。

アルミスクラップの輸出量(CY2024)^{*1}
43万トン
国内アルミ需要^{*2}の約1割に相当

□ 脱炭素促進や環境規制強化への対応

- GHG削減(カーボンニュートラル達成)には再生資源の活用が不可欠。
- スクラップヤード管理に関する規制は厳格化される見通し。

アルミ再生地金の製造に起因するGHG排出量は
新地金の30分の1^{*3}



日本政府も循環経済構築を
国家戦略と位置づけ推進

2024年12月
「循環経済への移行加速化パッケージ」^{*4}が策定され、
支援制度の構築や補助金等を推進

2025年6月
「経済財政運営と改革の基本方針2025」においても
アルミ等の再資源化促進を明記^{*5}

サーキュラーエコノミー（循環経済）については、再生材利用拡大と製品の効率的利用を促進する動静脈連携のための制度⁶⁸や太陽光パネルの廃棄・リサイクル制度の検討、プラスチック・アルミ等の金属の再資源化を含め、研究開発や設備投資の支援を行うとともに、国際協力やルール形成を推進する。

*1 財務省貿易統計 統計品別表「アルミニウムくず」を集計

*2 独立行政法人 エネルギー・金属鉱物資源機構(JOGMEC)「鉱物資源マテリアルフロー2021 アルミニウム(AI)」
https://mric.jogmec.go.jp/wp-content/uploads/2022/08/material_flow2021_AI.pdf

*3 一般社団法人 日本アルミニウム協会 LCA調査委員会「展伸材用スクラップ溶解のインベントリ分析報告書」
https://www.aluminum.or.jp/wp-content/themes/dp-colors/img/2-1-2_2024_2.pdf

参考:環境省「今後の廃棄物処理制度の検討に向けた中間取りまとめ」
<https://www.env.go.jp/council/content/03recycle06/000323941.pdf>

*4 内閣官房「循環経済(サーキュラーエコノミー)への移行加速化パッケージ」

<https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/economiccirculation/pdf/honbun.pdf>

*5 内閣府「経済財政運営と改革の基本方針2025」3.『投資立国』及び『資産運用立国』による将来賃金・所得の増加(1)GX推進 P17より抜粋

https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/cabinet/honebuto/2025/2025_basicpolicies_ja.pdf

Copyright ©2025 ALCONIX CORPORATION All Rights Reserved.

INDEX

1. 2026年3月期 1Q 決算概要
2. 2026年3月期 通期業績見通し
3. トピックス

中期経営計画2024振り返り(再掲)

会社概要 / Appendix

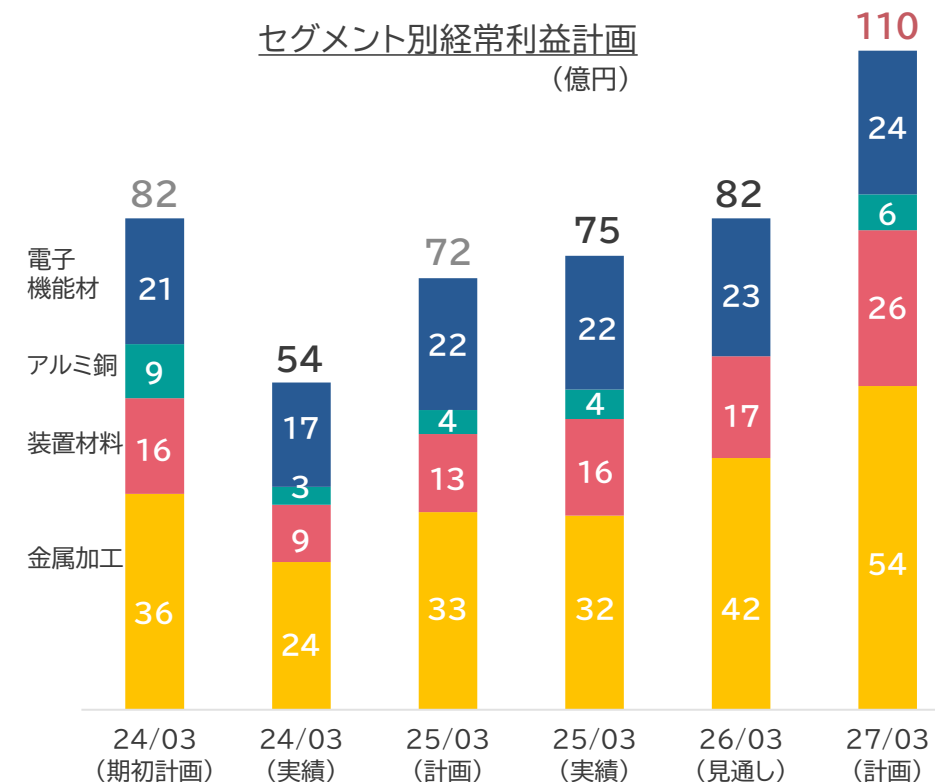
中期経営計画2024振り返り 数値目標の達成状況



- ▶ 数値目標に掲げた「売上高」「経常利益」「EBITDA」「ROE」達成。

(百万円)	2024年 3月期 期初計画	2024年 3月期 実績	2025年 3月期 計画	2025年 3月期 実績	2026年 3月期 通期見通し	前期比
売上高	186,000	174,901	185,000	197,004	215,000	+17,995
営業利益	8,400	5,463	7,200	6,919	8,800	+1,880
経常利益	8,200	5,447	7,200	7,528	8,200	+671
EBITDA	12,800	10,253	11,700	11,734	13,000	+1,262
ROE	9.8%	2.9%	8.1%	8.6%	9.2%	+0.7pt
ROIC	4.5%	2.8%	4.3%	3.9%	5.4%	+1.5pt

セグメント別経常利益計画
(億円)



外部環境変化を鑑み中期経営計画2024 2027年3月期数値目標を見直し。
2026年3月期Q2 経常利益セグメント別内訳を見直し。

【見直し後】2027年3月期計画数値(中計2024計画比/億円)
電子機能材:△2 アルミ銅:△6 装置材料:+1 金属加工:△3

EBITDA=営業利益 + 減価償却費 + のれんの償却額

ROE =親会社株主に帰属する当期純利益÷株主資本x100

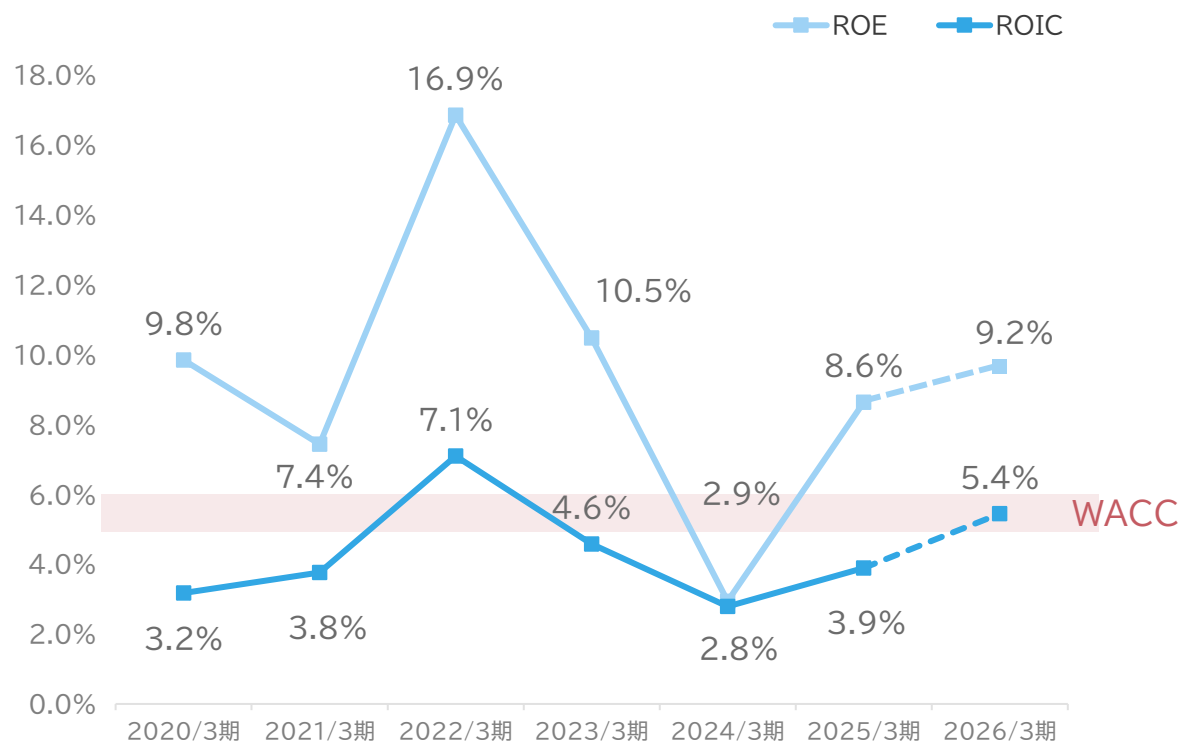
ROIC =税引後営業利益÷(有利子負債+株主資本)x100

※「株主資本」の定義:連結貸借対照表の「資本金」+「資本剰余金」+「利益剰余金」

現状分析

- 事業ごとの資本収益性を計るROICを指標として採用。
- WACC*は5%半ば程度と認識。

ROEとROICの推移



* 当社試算加重平均資本コスト

※25年3月末時点

【2024年3月期】

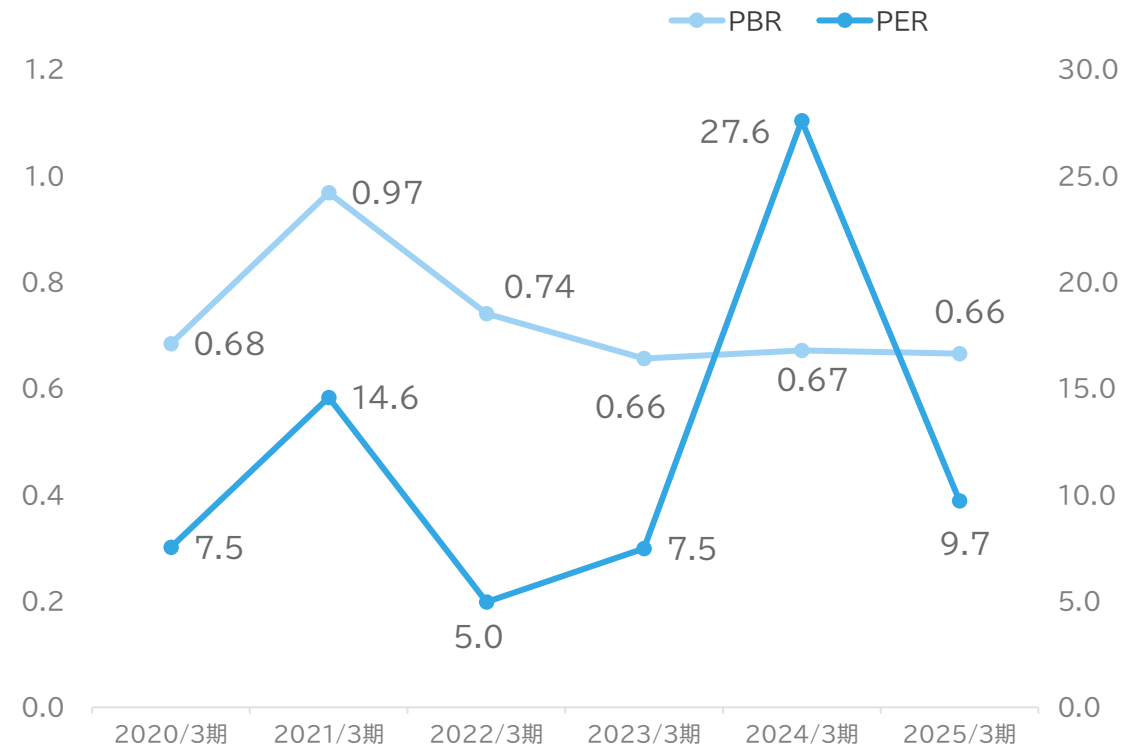
- ・ 中国グループ会社の構造改革費用を計上
- ・ 中国向け債権の貸倒引当金を計上

ROE = 親会社株主に帰属する当期純利益 ÷ 株主資本 × 100

ROIC = 税引後営業利益 ÷ (有利子負債 + 株主資本) × 100

※「株主資本」の定義: 連結貸借対照表の「資本金」+「資本剰余金」+「利益剰余金」

PBRとPERの推移



- 会社名 アルコニックス株式会社
- 本社 東京都千代田区永田町二丁目11番1号 山王パークタワー12階
- 設立 1981年7月1日
- 資本金 5,851百万円(2025年3月末)
- 従業員数 3,254名(連結 2025年3月末)
- 上場証券取引所 東京証券取引所プライム市場 (証券コード: 3036)
- 事業内容 アルミ、銅、ニッケル、レアメタル・レアアース等の製品並びに原材料等の輸出、輸入及び国内販売および金属加工を中心とした製造業

非鉄金属業界における当社の位置づけ



アルコニックグループの事業形態

商社流通

電子機能材事業

スマートフォン、車載用電池向け材料や
レアメタル・レアアースの鉱石・地金・製品を取扱う

主要な事業領域



IT機器



二次電池
(蓄電池)



半導体・電子部品

商社流通

アルミ銅事業

アルミ圧延品/加工品、伸銅品、金属珪素、鉛地金、
アルミ/銅スクラップの取扱いとリサイクル事業を行う

主要な事業領域



自動車



半導体・電子部品



家電製品

製造

装置材料事業

自動車・鉄鋼関連向けに
製造業向け材料および検査装置を製造する

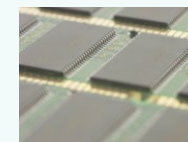
主要な事業領域



自動車



鉄鋼



半導体・電子部品

製造

金属加工事業

半導体・自動車・空調向けに、
各種精密金属加工部品を加工・製造する

主要な事業領域



半導体製造装置
(実装装置含む)



自動車



業務用エアコン

M&Aの考え方 - 方針 -

- 事業承継型M&Aでモノづくり企業の再編統合や事業を再構築することで技術を承継し継続的な成長を後押しする
- 補完型M&Aで一気通貫のバリューチェーンを構築する
- 精密金属加工という共通性と地理的な分散を有効活用し「モビリティ」「半導体」という戦略的成長投資分野においてグループとしての受注機会を最大化する

アルコニックス流 M&Aの7つの方針

1. 飛び地にはいかない=自社グループ事業と関連あるモノづくりの技術(Technology)をもつ企業を選択する
2. 陳腐化しないニッチ(Niche)な分野で強みをもつ企業を選択する
3. 事業再生案件には介入しない
4. 対象企業の個としての成長(Growth)を重視し、成長過程のなかでグループシナジーを見つけ出す
5. 加工する機械や設備などを調査し、次なる成長(Growth)への糧を見出す
6. オーナーの人柄、経営に対する姿勢を十分に理解する
7. 基本的には株式を100%買い取る

事業承継型 M&A

グループ間の技術者交流や協業の促進
経営資源の最適化・投資余力の確保

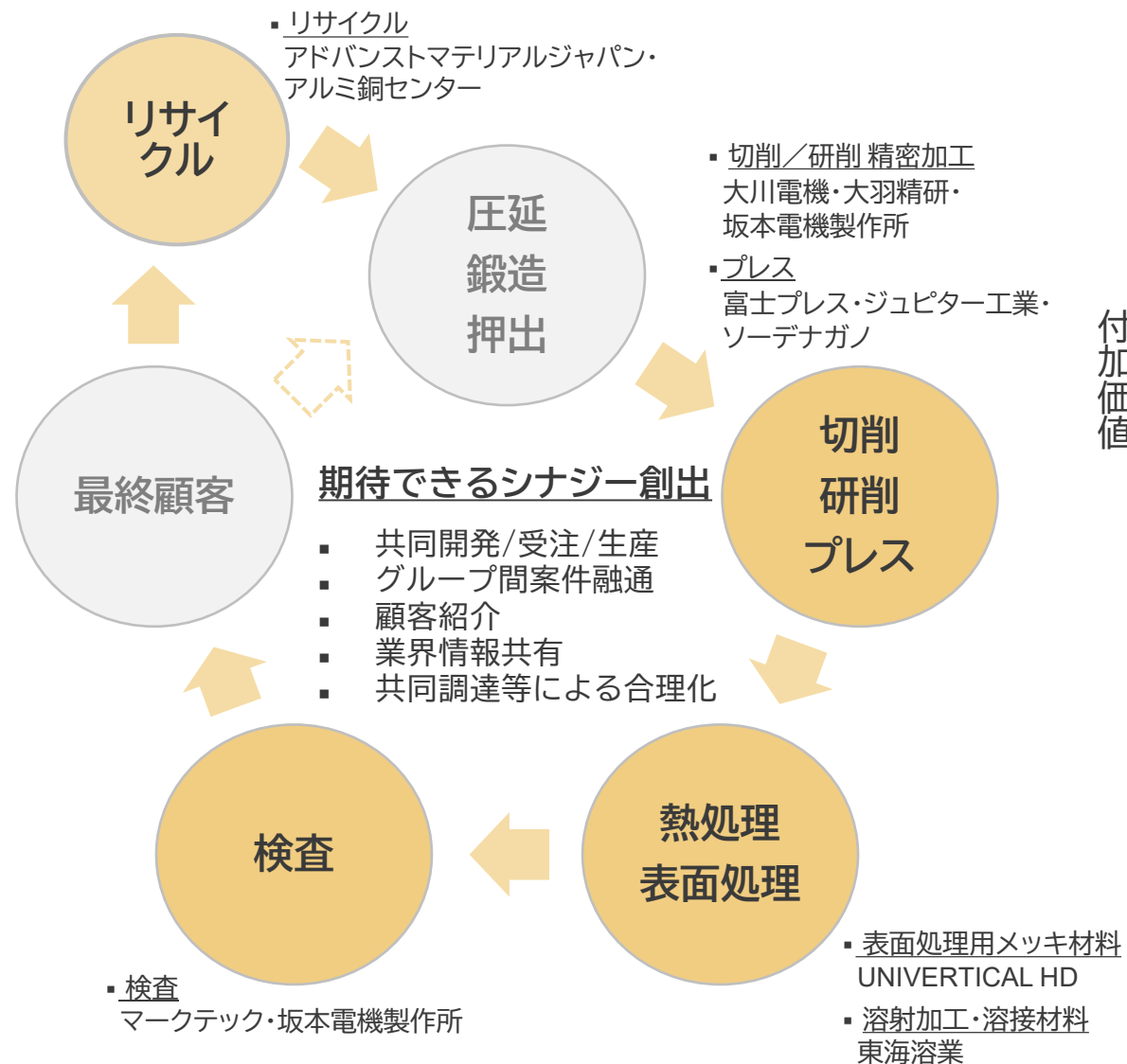
高付加価値製品の技術承継で持続的に稼げる企業へ
設備や人材へ投資することにより成長能力を底上げ

日本のモノづくりへの貢献

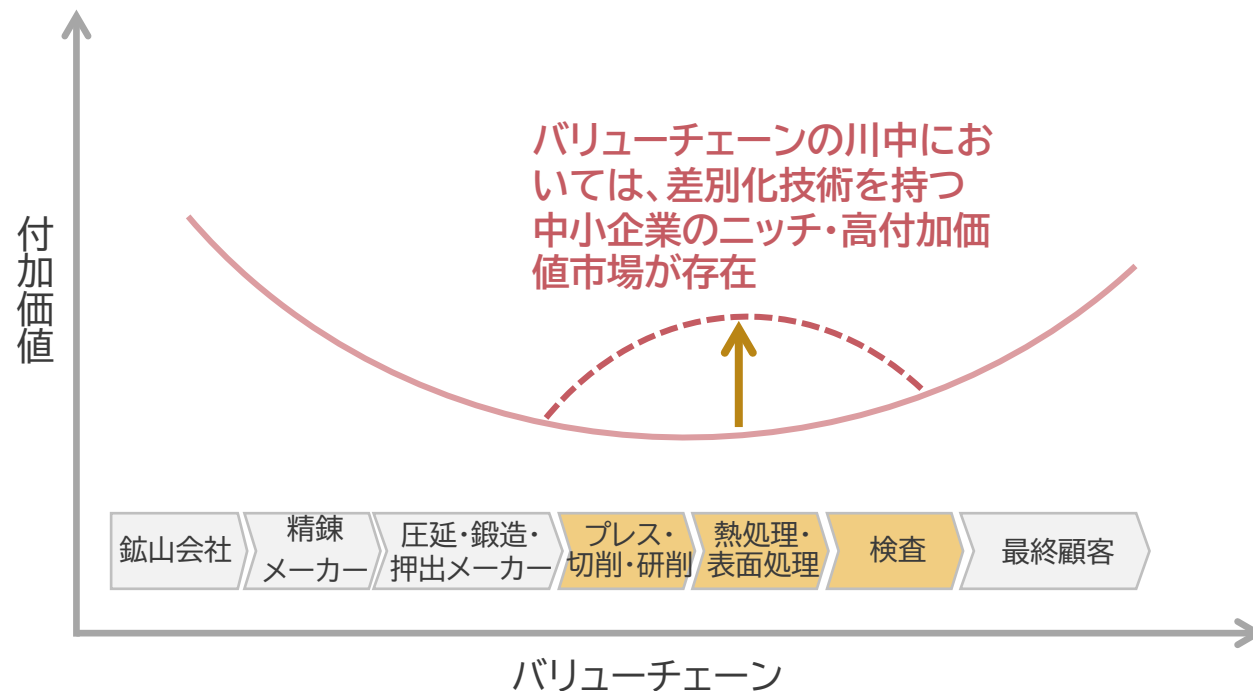
M&Aの考え方 - 補完型M&A① -

補完型 M&A

① 金属加工バリューチェーンを補完(垂直型)



金属加工バリューチェーンにおける付加価値

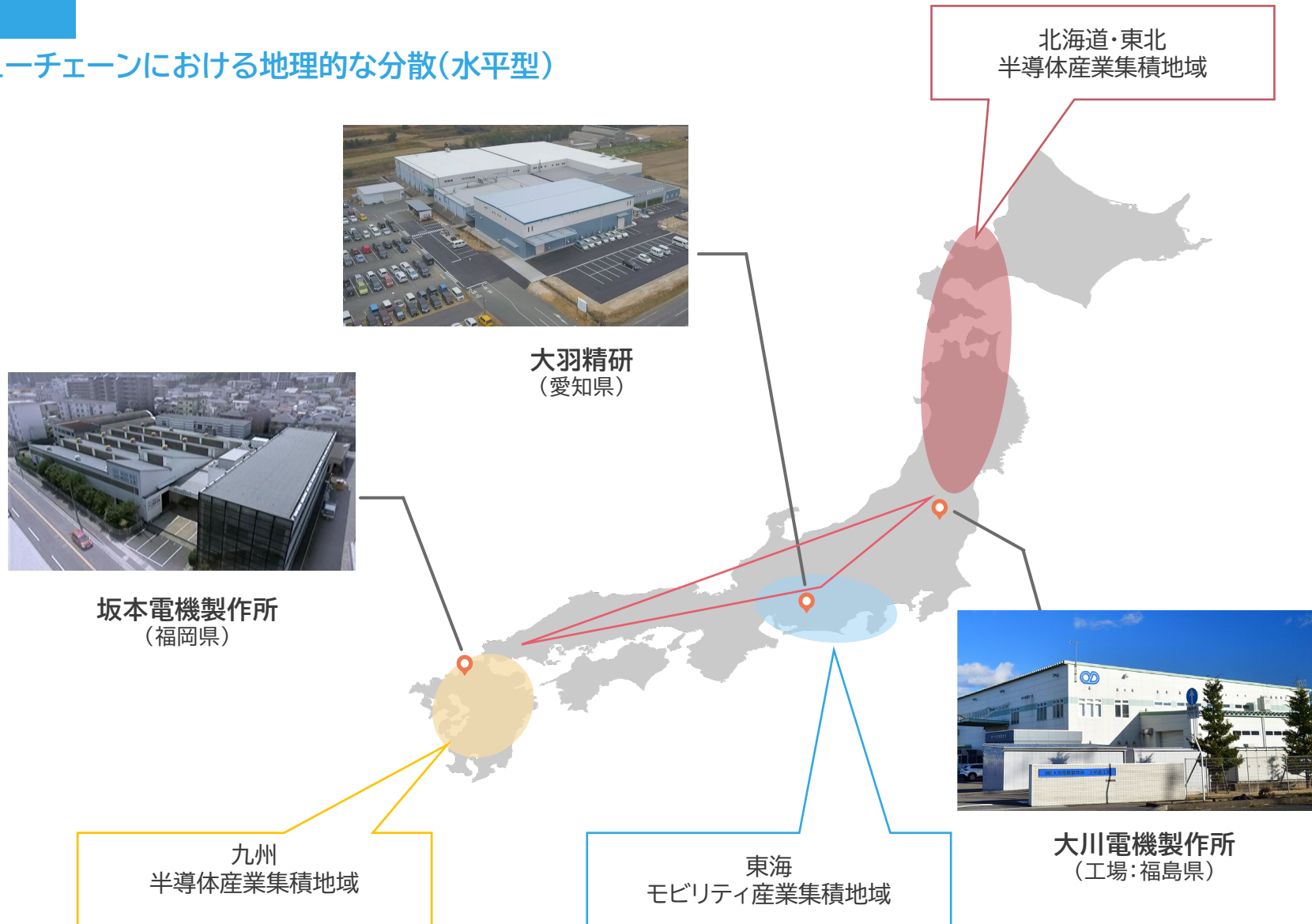


アルコニックスグループ内でバリューチェーンを構築し
複数ステップを自社に取り込み、利益の取りこぼしを極小化する

M&Aの考え方 - 補完型M&A② -

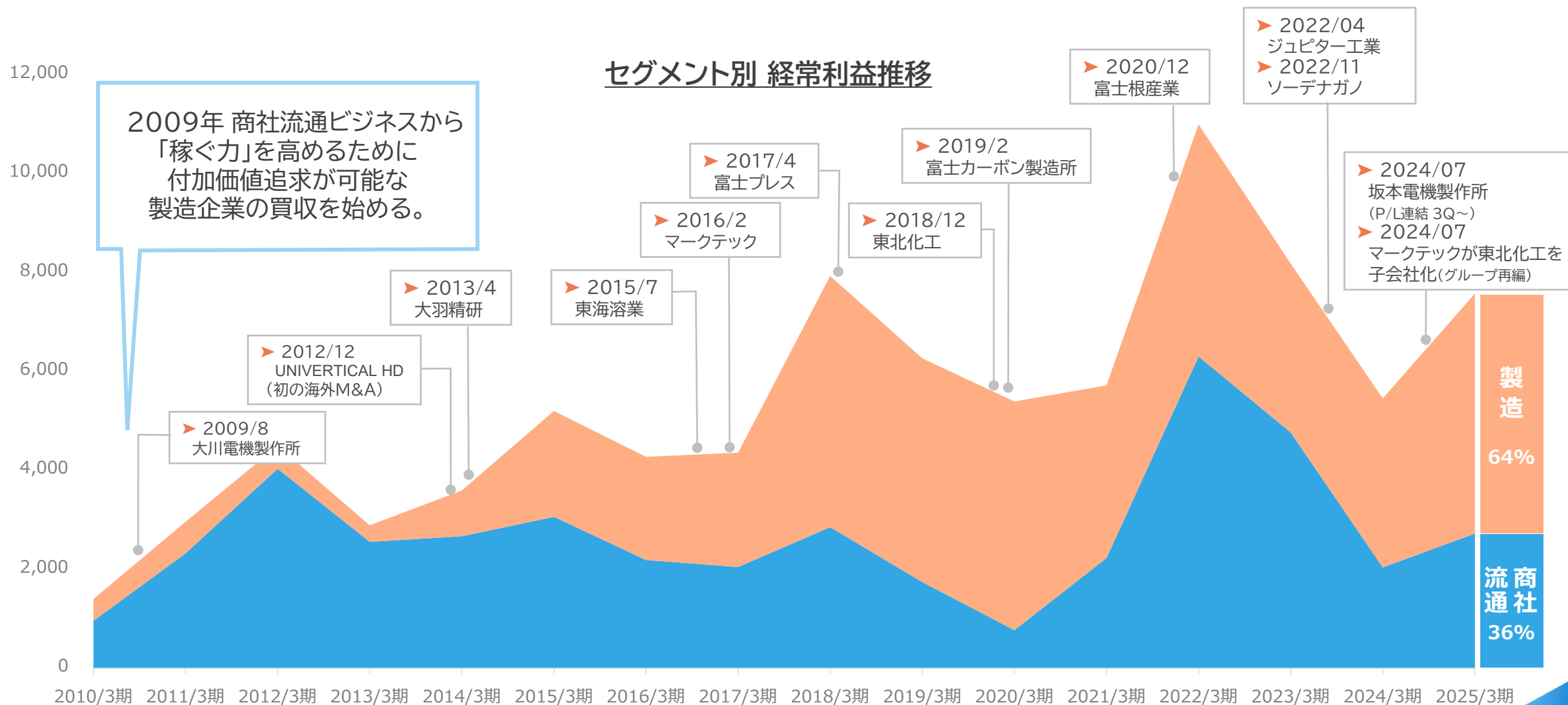
補完型 M&A

② 金属加工バリューチェーンにおける地理的な分散(水平型)



M&Aにより製造セグメントが第2の柱に成長

非鉄金属取引主体の祖業 商社流通ビジネスを軸に「稼ぐ力」を高めるため
業容拡大と付加価値追求を目的として製造会社を次々に買収。第2の事業の柱として築く



CVC（コーポレートベンチャーキャピタル）



従来のM&Aに加え、2021年8月CVCを設立。

アーリー・ミドルステージを中心に素材・モノづくり分野の有望ベンチャー企業へ投資

当社CVCの特徴

商社機能と製造機能の両面からのハンズオン支援
販売・調達、開発・製造・実証など幅広い分野で事業育成を支援



投資先 事業領域

素材(Material)

半導体、電子材料、車載関連を中心とした新素材

・カーボンナノチューブ ・発泡金属 ・電池材料 ・磁性材料

モノづくり(Manufacturing)

新たなイノベーションをもたらす製造・検査技術や資源循環型社会に貢献するリサイクル技術

・AI/ロボティクス ・マテリアル インフォマティクス ・自動外観検査装置 ・自動搬送ロボット
・金属リサイクル ・3Dプリンター ・水素発生装置 ・ドローン

投資実績

運用資産 3,000百万円
投資実績 9件(2025年3月末現在)

 Novel Crystal Technology, Inc.

LINKWIZ
Robotics & Partners



Gaianixx

サステナビリティ推進の進捗状況

■ 現状スコアとKPI・目標

H

【女性管理職比率】
【教育研修費/人】
【教育研修時間/人】

～24年3月期

6.4%
7.9万円
15.5h

25年3月期

6.8%
11.9万円
18.6h

27年3月期KPI/目標

10.0%
18.0万円
18.6h以上

(いずれも単体ベース)

E
S
G

当社グループへの外部評価の推移

【FTSE ESG総合スコア】*()内は業界平均値からの上下

0.6(-) → 0.8(-) → 1.1(-) ▶ 1.6(-)
(20/3期) (21/3期) (22/3期) (24/3年)

【EcoVadis 総合得点】

31 ▶ 39
(23/3期) (24/3期)

【CDP スコア実績】

D ▶ C
(23/3期 初解答) (24/3期)

1.7 (-)
(25/3期)

(平均業種別スコア46-50)

44
(25/3期)

B
(25/3期)

当社のありたい姿

業界平均以上

平均業種別スコア以上

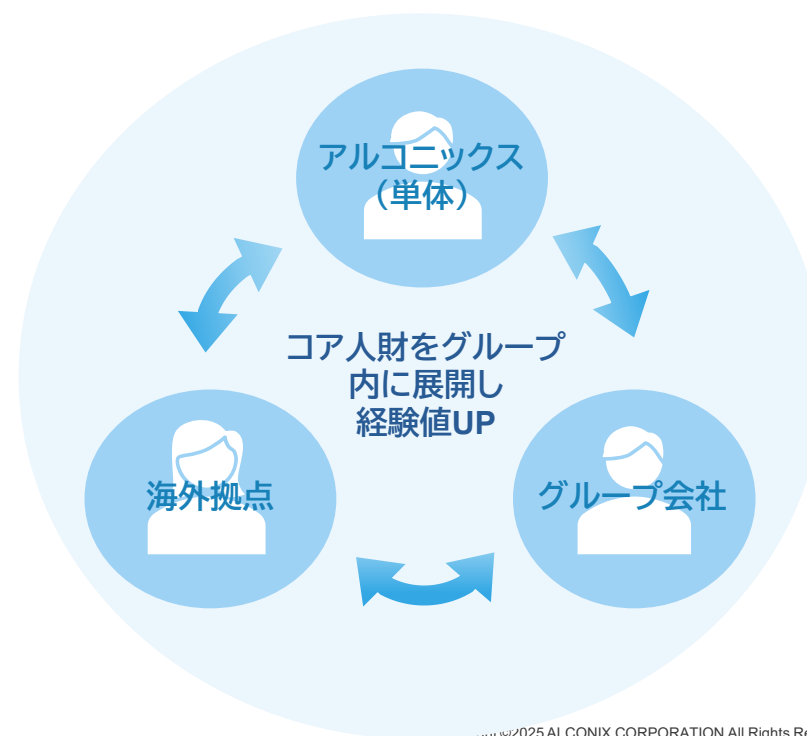
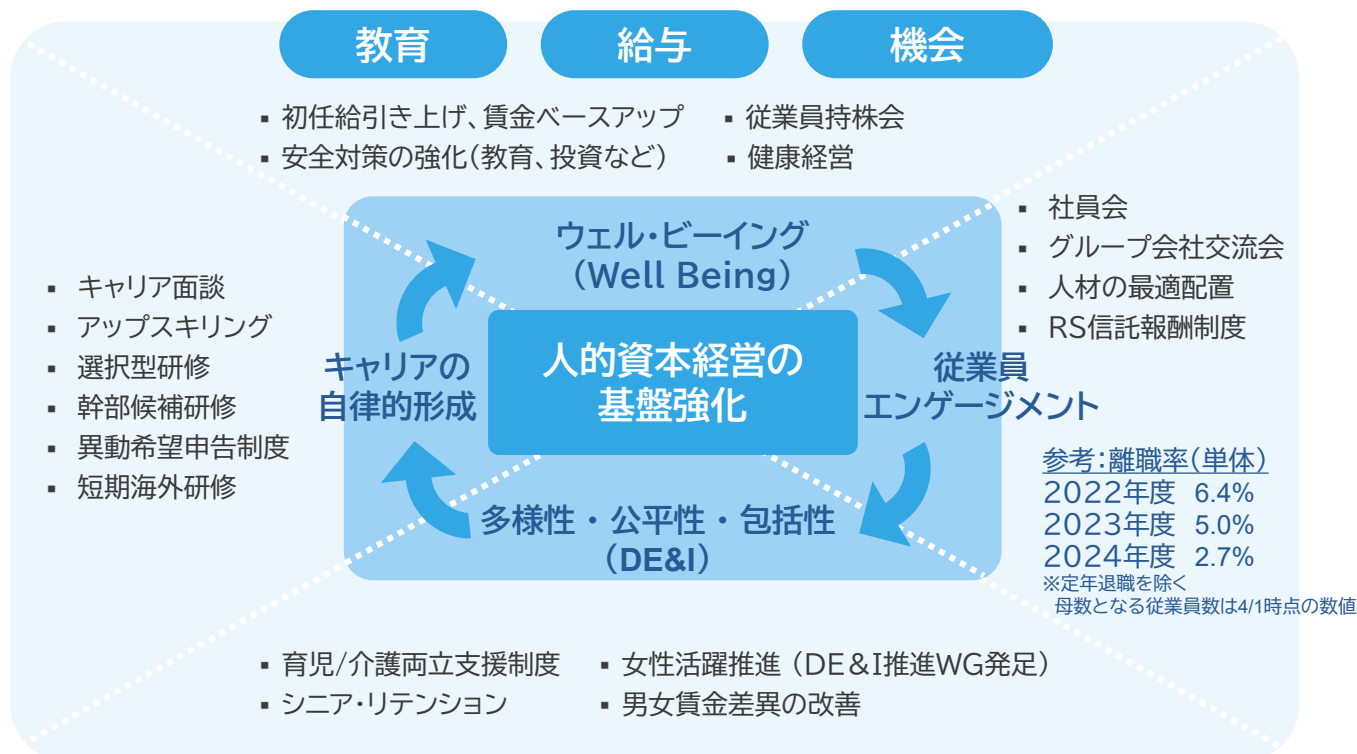
B以上を目指す

パーパス 「どこかにいる、だれかの未来のために」

ビジョン 「ヒトをつなぐ、モノをつなぐ、技術をつなぐ」

ヒトをつなぎ、コア人財を育成し、稼ぐ力を強化

- ✓ 従業員のスキルや経験値を上げることで、仕事へのモチベーションとパフォーマンスを向上させる
- ✓ 事業ポートフォリオ組替に応じた人財の最適配置と、新規ビジネスを創出できるコア人財の確保・育成
- ✓ 商社から製造・開発まで幅広い業務や経験を通じた、グループ経営の次世代を担うマネジメント人財の育成



シェアードリサーチ社によるアナリストレポート

中立性客観性を重視し、第三者視点での調査、分析に基づいて作成されたシェアードリサーチ社のアナリストレポートを公開しています。事業構造や競争環境、優位性等の網羅的な内容となっており、投資家の皆様に当社へのご理解を深めていただき、投資判断のご参考としていただけますと幸いです。

アルコニックス株式会社 | Shared Research

【DISCLAIMER】

本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは異なる結果となることをご承知おきください。

IRに関するお問合せ先

アルコニックス株式会社 IR広報部

ir@alconix.com